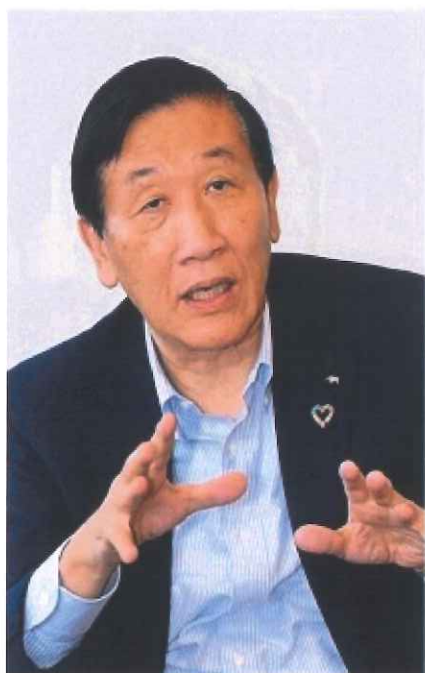


## 渋沢栄一の教えを経営に実践するアクサ生命保険社長

人



やすぶち せいじ  
安淵 聖司さん

今月3日に流通が始まった新紙幣。1万円札の肖像画は「日本の資本主義の父」と呼ばれる渋沢栄一に代わった。その渋沢の著書「論語と算盤」を座右に置き、教えを経営に実践する。

「わが社の経営理念と非常に一致する。日本経済の背骨とするべき考え方です」と力説する。神戸市東灘区で生まれ、同市や尼崎市で育った。尼崎西高から早稲田大へ。三菱商事で商社マンとして20年間活躍した後、複数の外資系金融機関で日本法人トップを歴任した。2019年、フランス系のアクサ生命保険（東京）社長に就いた。

10年ほど前、経済同友会の活動を通じて知り合った渋沢の子孫、渋沢健氏が主宰する「『論語と算盤』経営塾」に参加した。公益と企業の利益を両立させることが企業の繁栄につながる、という教えに深く共感した。

くしくもアクサ生命は渋沢と縁があった。同社が合併した日本団体生命保険は、全国の商工会議所を通じて中小企業の従業員に共済を提供していた。その商工会議所を明治期に日本で初めて設立したのが渋沢だった。

社会との共存共栄を意識し、アクサ生命が取り組む活動の一つが減災教育だ。東日本大震災をきっかけに14年、日本ユネスコ協会連盟と共同で開始。プログラムを受講した教職員を通じて、9万人以上の子どもや保護者が減災の手法を学んだ。今年1月の能登半島地震では、避難所運営に効果を発揮したという。

「微力ながら、会社の外に向かってプラスの影響を与えていければ」。68歳。

（記事・高見雄樹、写真・大田将之）